

会議の名称	令和8年度第1回 韮崎市障がい者施策推進協議会		
開催日時	令和8年8月31日（月） 13時30分～15時10分		
開催場所	韮崎市役所別館 2 階 201 会議室		
議題 （協議事項）	(1) 第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画の概要 (2) 第 7 期障がい福祉計画・第 3 期障がい児福祉計画の目標値と達成状況 (3) 計画策定スケジュール (4) その他		
出席委員	杉山委員・栗原委員・小泉委員・坂本委員・飯室委員・梶山委員・堀内委員・功刀委員 以上8名		
公開区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開		
傍聴人の数	0 人		
事務局	【庁内関係課】田中進路指導主事・福田リーダー・古屋リーダー・小屋リーダー 【事務局】平賀課長・西海補佐・金原・森澤・清水 以上9名		
協議 内容 及び 決定 事項	1. 開 会		
	2. 会長あいさつ		
	3. 自己紹介		
	4. 議事 議題(1) 第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画の概要		
	発言者	内 容	
	議長	議題(1)について事務局より説明をお願いしたい。	
	事務局	第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画について、計画の位置付け、計画期間、国の基本指針に示されている成果目標等について説明	
	A 委員	国から示された数値目標を設定し、達成状況を確認するだけではなく、本市としてどのような地域を目指すのかという将来像を明確にした計画にする必要があるのではないか。人口動態や障害のある方の高齢化、家族構成の変化等を踏まえ、5 年後、10 年後にどのような課題が生じるのかを予測し、そのために必要なサービスや支援体制を考える必要がある。 「数字を達成すること」が目的になるのではなく、地域を良くするために数値目標を設定するという考え方が重要ではないか。	
	事務局	いただいた意見を踏まえ、国の基本指針だけではなく、本市の地域特性や今後の課題を踏まえた計画となるよう検討していきたい。	
	A 委員	今回の計画策定にあたり、アンケート調査等を実施する予定はあるか。	
事務局	今回については、特段のアンケート調査は予定していない。日頃の相談対応や自立支援協議会での議論、関係機関との意見交換等を通じて現状を把握し、計画に反映していく予定である。		
A 委員	当事者や家族から直接意見を聞く機会も必要ではないか。サービスを利用する本人から、「どのような地域で暮らしたいか」「どのようなサービスが必要か」といった意見を把握し、計画に反映してほしい。		
事務局	当事者や関係者の意見をどのように把握し、計画に反映するかについて、今後検討していきたい。		
B 委員	「望まないセルフプランの削減」とあるが、ここでいう「望まないセルフプラン」とは具体的にどういうものか。		
A 委員	相談支援体制を充実させるためには、人材だけでなく財源も必要になる。国が示す目標を実現するためには、自治体だけで負担するのではなく、国に対して必要な財源措置を求めていくことも必要ではないか。		
事務局	「望まないセルフプラン」とは、相談支援事業所の不足等により、希望しているにもかかわらずセルフプランとなっているケースのこと。相談支援体制の充実には、人材・財源の確保が課題で		

		あると認識している。今後の計画策定の中でも検討していきたい。
議題(2) 第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の目標値と達成状況		
協議内容及び決定事項	議長	次に、議題(2)について事務局より説明をお願いしたい。
	事務局	説明
	議長	委員より、確認や意見をお願いしたい。
	A委員	次回以降の資料では、令和6年度、令和7年度、令和8年度の実績と目標値を並べ、計画期間全体の推移が分かるようにしてもらえると分かりやすい。
	事務局	今後の資料作成の参考としたい。
	B委員	施設入所者の地域移行について、国の指針では施設入所者を減らす方向になっているが、これは単純に施設の定員や入所者数を減らしていくということなのか。
	A委員	国の基本指針では地域生活への移行を進める方向が示されているが、単純に人数を減らすことだけを目的とするものではなく、本人の意向や地域での生活を支える体制を踏まえて進めていく必要がある。施設から地域へ移行する場合、移行後の生活の場や支援体制が確保されていることが重要である。また、施設側も入所者を減らした場合の経営や人員配置等の課題がある。地域移行を進めるのであれば、移行までの経過や受け皿、財政面も含めて市から情報提供や支援をしてほしい。
	議長	本人の意向を確認しながら地域移行を進めることが重要と認識している。地域生活支援拠点事業ともリンクする内容となるため、体制や受け皿の確保についても、あわせて検討していただきたい。
	A委員	地域移行については、国の数値をそのまま適用するのではなく、本市にとっての「地域生活」とは何かを考える必要があるのではないかと。 施設だから地域ではないという単純な考え方ではなく、施設の個室化やプライバシーの確保など、施設の中で生活の質を高めることも含めて考える必要がある。
	議長	地域の実情を踏まえて、本人にとって望ましい生活とは何かという視点を持って検討していただきたい。
	A委員	地域生活支援拠点等のコーディネーターについて、目標に掲げているにもかかわらず、まだ配置されていない。配置が望ましいが、具体的にどのように進めていくのか。
	事務局	引き続き検討していく。
	A委員	自立支援協議会や各部会でどのような議論が行われているのか、参加していない委員には分かりにくい。協議内容や資料等について、もう少し情報共有してほしい。
	事務局	今年度より自立支援協議会の事務局が北杜市へ移行している。事務局内にてホームページへの掲載や協議会委員への議事録のメール送付等も含め、情報共有の方法について検討している。
	C委員	就労支援について、一般就労への移行者数など「数値」の達成だけを追いかけるのではなく、どのような支援を行った結果、その数字につながったのかという「支援の質」にも目を向ける必要がある。企業側についても、障害者雇用率の達成だけを目的として雇用し、仕事の準備や障害理解が十分でないケースがある。数字を達成することが目的になると、本来必要な支援が置き去りになることが懸念される。
	議長	支援事業所がどのような支援を行っているかという部分を数値化することには難しさがあるが、本日いただいた意見を踏まえ、今後の計画策定や次期計画に活かして欲しい。
	A委員	数値目標だけでなく、「なぜその数字を目標とするのか」「その数字を達成するためにどのような支援が必要なのか」という考え方を計画の中に盛り込んでほしい。
	事務局	今後の計画案の検討において、その視点を踏まえて整理していきたい。
議題(3) 計画策定スケジュール		

	事務局	説明
	A 委員	次回の協議会では、計画案だけでなく、数値目標の根拠や現状分析、今後の方向性、本市として目指す地域の姿についても示してほしい。また、必要な施策を実現するためには予算や人材の確保も必要になる。計画を作るだけで終わらず、実現に必要な財源確保や国・県への要望まで含めて考えてほしい。
	事務局	本日いただいた意見をできる限り計画に反映できるよう、庁内で検討していきたい。
議題(4) その他		
協議内容及び決定事項	D 委員	他自治体では、障害者手帳を持つ方等を対象にアンケートを実施し、当事者の声を拾いながら計画を策定している例がある。本市でも、相談支援専門員等の協力を得ながら、本人や家族の声を聞き、利用者目線の計画としていくことが重要ではないか。
	事務局	いただいた意見を参考に、当事者・家族等の意見をどのように計画に反映できるか検討していきたい。
	A 委員	障害児支援について、放課後等デイサービス等の利用が増えているが、単純に「サービス利用が増えた」という結果だけを見るのではなく、その背景に何があるのかを把握する必要がある。放課後児童クラブ等の受入れが難しいため、障害児サービスに利用が集中している可能性もある。児童数が減少している中で、なぜ特定のサービスの利用が増えているのか、市として分析してほしい。
	事務局	放課後児童クラブ等については、受入人数や職員配置等に課題が生じている現状を把握している。障害児サービスの利用増加についても、背景を含めて今後の課題として検討していきたい。
	C 委員	幼児期から学校、成人期まで、支援が途切れないことも重要である。一例に、不登校やひきこもり、通信学校卒業後に適切な支援につながらないまま成人し、その後も相談先につながらないケースがある。ライフステージごとに支援が途切れない仕組みについても、今後の課題として捉えてほしい。
	事務局	切れ目のない支援体制については、今後の地域づくりを考える上でも重要な視点として受け止める。
5. 閉 会		